

## 6年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「新しい文化と学問」～泰平の世から生まれた誇れる文化と優れた学問～

2. 学校教育目標と社会科（本単元）で目指す子どもの姿

《省略》

3. 単元目標

歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について世の中の様子、人物の働きなどに着目し、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとしたり、学習したことをもとに長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、町人文化が栄え、新しい学問がおこったことを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について考え、表現している。 ②歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	①歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

## 5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

### (1) 教材化 ～世の中の様子から文化の広がりや学問の発展を考える～

本単元では、江戸時代の政治下で町人が中心となり、文化が栄え優れた学問が起こったことを学習していきます。江戸時代に生まれた文化である歌舞伎や浮世絵は、民衆にとって欠かせない娯楽として大流行しました。学問の面では漢訳洋書輸入の禁の緩和により蘭学がおこり、医学や天文学などが飛躍的に向上しました。安定した時代の中で、文化を楽しむ町人の暮らしや人物の業績に着目することで、町人を中心とした文化の広がりや学問の発展に迫れるように教材化しました。また、江戸時代に生まれた文化は現在でも楽しまれていたり、解体新書や大日本沿海輿地全図などは現代の学問への基盤となっていたりします。現在とのつながりに触れることで、江戸の文化や学問のすばらしさを考えられるように教材化に取り組みました。

### (2) 学習過程 ～偉人の業績から当時の社会の様子を考える学習過程～

単元のはじめに賑やかな江戸の町の様子や寺子屋で学ぶ様子を提示し、単元を見通す学習問題を設定します。その問題意識のもと、江戸時代の代表的な文化である歌舞伎や人形浄瑠璃、浮世絵について調べ、歌川広重の浮世絵が町人の間で大流行した理由を探り、当時の町人の生活の様子が考えられるようにしました。学問についても同様の学習過程を経ることで、子どもたち自身が町人を中心とした文化や学問がおこっていったことに気付いてほしいと考えました。単元の終末では、江戸時代の文化や学問の中心が町人であった理由を考え、この頃の世の中の様子に迫っていく時間を設定しました。これまでの学習や前単元での学びを根拠として、人々の暮らしに余裕が生まれた背景について考えられるようにします。代表的な文化を楽しむ人々の様子や人物の業績について考えることを通して、平和で活気のある江戸の社会を実感できる学習過程となるようにしました。

### (3) 学習活動 ～既習を生かし、友達と意見を摺り合わせ問題解決に迫っていく活動～

単元を通して資料を読み取ったり、読み取ったことを関連付けて考えたりする活動を大切にしました。一人一人が資料と向き合い、自分の考えをもつことで話し合える土台をつくっていきます。6時間目には、グループ活動を行い、これまでの学習を関連付けながら問題解決を図る場面を設定しました。お互いが考えを伝え合う中で、学びが深まっていく姿を目指しました。その際、話し合いを方向付けたり、既習の文化や学問と関連する視点を与えたりする教師の言葉かけが大切になります。協働的な学びを通して、追究意欲を高めていくようにしました。

### (4) 指導と評価 ～「学びの地図」を活用して子どもの思考を見取り、子どもの学びへ還す～

A小学校では伸びる子を実現するために、毎時間、全教科を通して「学びの地図」というポートフォリオ評価を実施しています。「学習の中で分かったこと・思ったこと」を簡潔に書くようにし、見開き1枚で単元の学びを振り返ることができるようにしてきました。この振り返りから子どもの様子を見取ることで、次時の授業改善に生かしたり、学習状況を価値付けたりして、子どもの学びがより深まるようにしていきました。

### (5) 一人一人が生きる社会科学習 ～子ども同士の対話活動、一人一人の問題解決～

社会科では、グループ活動を主軸として、互いの考えを聴き合いながら、自分たちの考えを深められるようにしています。子どもたちが問題解決をする際、グループで話し合いながら資料を読み取ったり活用したりすることで、対話を通して一人一人が考えをもてるようにしています。その一人一人の考えを大切に、自分の言葉でまとめ、その子自身の言葉の良さを価値付けることで、個々の学びが豊かになることを目指しました。

## 6. 問題解決的な学習の充実に迫る単元構想

「幕府の政治と人々の暮らし」では、江戸時代初期に武家諸法度や参勤交代を通して諸大名を統治していく仕組みが作り上げられたこと、百姓や町人などに対する統制も進んだこと、キリスト教の広がりや自由貿易などを取り締まったことなどによって幕府の支配が広まっていく過程を学習した。そうした工夫もあり江戸幕府が徳川による政権として受け継がれていくことになり、江戸幕府は約260年続き、安定して政治を行うことができたことに迫った。

学びの見直し

幕府の政治が安定した頃の人々はどんな暮らしをしていたのだろう。

学習問題づくり

芝居小屋にかけつけた人々  
寺子屋の様子

町は人がたくさんいて、とても賑やかだ。  
日本全国、寺子屋で学んでいる人がいたんだ。

①江戸時代の文化や学問はどのような特徴があるのだろう。

【思-①】【態-①】

単元を見通す  
学習問題

どんな文化か調べよう

どんな学問か調べよう

今とのつながりを考えよう

②江戸時代の文化にはどのような特徴があるのだろう。【知-①】

芝居小屋にかけつけた人々

③どうして歌川広重の浮世絵はこんなに人気となったのだろう。【知-①】

歌川広重の作品  
(東海道五十三次)

旅行を楽しむ人々

近松門左衛門の  
人形浄瑠璃

歌川広重の  
浮世絵

町人文化

各地の風景画

町人の暮らしの余裕

旅行が流行

④江戸時代の学問にはどのような特徴があるのだろう。【知-①】

新しくおこった学問

伊能忠敬の  
日本地図

杉田玄白の  
解体新書

本居宣長の  
古事記伝

⑤どうして伊能忠敬は正確な日本地図を作成することができたのだろう。【知-①】

45~71歳の  
学問の積み重ね

学問を基にした測量

天文学の知識

伊能の財力  
(町人の余裕)

天文学に基づいた  
測量器具

今にも通ずる優れた学問だ。

調べる・練り上げる↓深める

⑥なぜ江戸の文化や学問は町人が中心になったのだろう。【思-②】

【思-②】

既習との  
関連

浮世絵や歌舞伎の流行

町人も活躍できる世の中へ

優れた学問

時間的・経済的余裕

賑やかな江戸の町

伊能の財力

町人の暮らしに余裕ができる  
幕府の安定した政治が土台

⑦江戸時代の文化や学問はどのような特徴があるのだろう。

【知-②】【態-②】

単元を振り返る  
学習問題

まとめ

江戸時代の文化は、暮らしに余裕ができた町人が中心となって作り上げたものだった。江戸時代の学問は、海外の学問を取り入れたことで新しくおこった、今にも通ずるようなものだった。こうした文化が栄え、新しい学問がおこったのは、江戸幕府の政治が安定し、平和な世の中になったおかげだ。  
この頃の人々が安定した社会の中で力をつけて発展させ、現在にも受け継がれている文化や学問がこれからも受け継がれて、日本の誇りとして残っていくといいな。

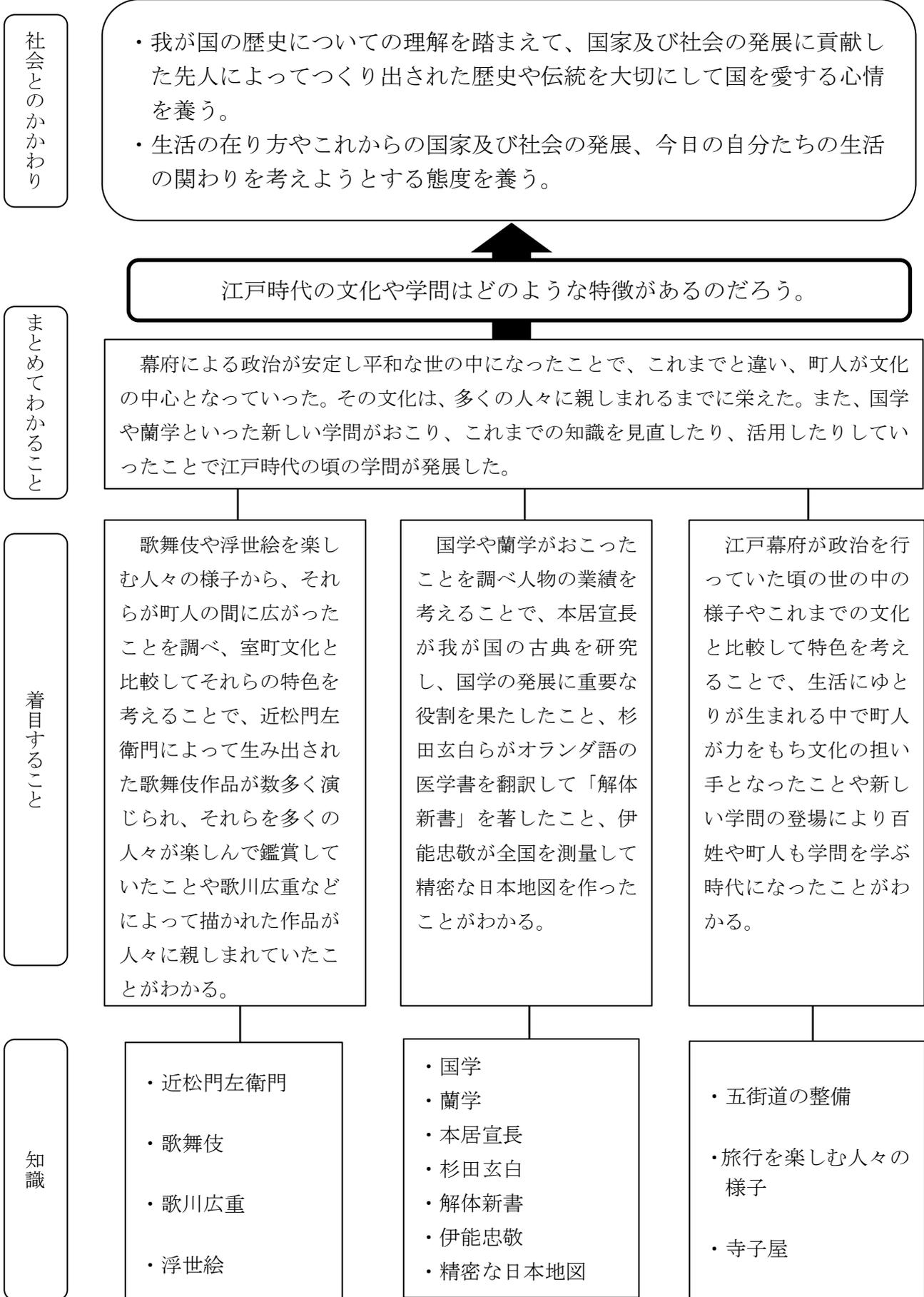
7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（7時間）

※は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
<p>①幕府の政治が安定した頃の暮らしについて学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。</p>	<p>○幕府の政治が安定した頃の人々はどんな暮らしをしていたのかについて予想を立て、考えを交流する。</p> <p>○単元を見通す学習問題を解決するための学習計画を立てる。</p>	<p>◇芝居小屋にかけた人々の様子</p> <p>◇寺子屋の様子</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から、「芝居小屋にかけた人々の様子や寺子屋の様子などに着目して問いを見出しているか」を評価する。 【思－①】</p> <p>発言内容やノートの記述内容から、「芝居小屋にかけた人々の様子や寺子屋の様子などに着目して予想や学習計画を立てているか」を評価する。 【態－①】</p>
<p>②江戸時代の文化について調べ、その特徴を見出すことができるようにする。</p>	<p>○江戸時代の文化にはどのようなものがあるのかについて調べる。</p> <p>○室町文化と比較しながら、江戸時代の文化の特徴について考える。</p>	<p>◇教科書・資料集</p> <p>◇室町文化（既習のノート）</p> <p>◇浮世絵とゴッホ</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から、「江戸時代の文化について調べ、その特徴を理解しているか」を評価する。 【知－①】</p>
<p>③浮世絵が人気となった理由について調べ、江戸時代に交通が整理されたことを理解できるようにする。</p>	<p>○資料をもとに、歌川広重の浮世絵が人気となった理由について調べる。</p>	<p>◇東海道五十三次</p> <p>◇街道の整備（教科書資料）</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から、「浮世絵が人気となった理由について調べて江戸時代に交通が整理されたことを理解しているか」を評価する。 【知－①】</p>
<p>④江戸時代の学問について調べ、優れた学問がおこっていたことを理解できるようにする。</p>	<p>○江戸時代の学問にはどのようなものがあるのかについて調べる。</p>	<p>◇教科書・資料集</p> <p>◇それまでの解剖図（『内景図説』）</p> <p>◇それまでの日本地図（『享保日本図』）</p> <p>◇漢訳洋書輸入の禁の緩和</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から、「江戸時代の学問について調べ、優れた学問がおこっていたことを理解しているか」を評価する。 【知－①】</p>

<p>⑤伊能忠敬がどのようにして正確な地図を作成することができたのかについて調べ、江戸時代の町人が力をつけていったことを理解できるようにする。</p>	<p>○資料をもとに、どうして伊能忠敬は正確な地図を作ることができたのかについて調べる。</p>	<p>◇伊能忠敬の年表資料 ◇天文学をもとにした測量の様子 ◇伊能忠敬が使用した測量器具</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から、「伊能忠敬が正確な地図を作成することができたことについて調べ、江戸時代の町人が力をつけていったことを理解しているか」を評価する。 <b>【知-①】</b></p>
<p>⑥歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を関連付けたり総合したりして、政治の安定が町人をはじめとした人々の暮らしに余裕をもたらした人々の暮らしに余裕をもたらした町人が文化の担い手となる社会となったことについて考え、表現できるようにする。</p>	<p>○これまでの学習をもとに、どうして町人が学問や文化の中心になったのかについて考える。 ○どうして町人に生活の余裕が生まれたのか、幕府の政治の安定と関連付けながら考える。</p>	<p>◇近松門左衛門・歌川広重・杉田玄白・伊能忠敬・本居宣長の身分 ◇それまでに学んだノート ◇賑やかで混み合う江戸の町の様子(『熙代勝覧』)</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から、「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を関連付けたり総合したりして、政治の安定が町人をはじめとした人々の暮らしに余裕をもたらした町人が文化の担い手となる社会となったことについて考え、表現しているか」を評価する。 <b>【思-②】</b></p>
<p>⑦江戸時代の文化や学問についてふり返り、町人文化や新しくおこった学問について理解し、今日の自分たちの生活との関わりを考えられるようにする。</p>	<p>○単元での学習を生かし、江戸時代の文化と学問の特徴や現代とのつながりについてまとめる。</p>	<p>◇それまでに使った文化や学問に関する資料</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から、「江戸時代の文化や学問についてふり返り、町人文化や新しくおこった学問について理解しているか」を評価する。 <b>【知-②】</b></p> <p>発言内容やノートの記述内容から、「江戸時代の文化や学問についてふり返り、今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしているか」を評価する。 <b>【態-②】</b></p>

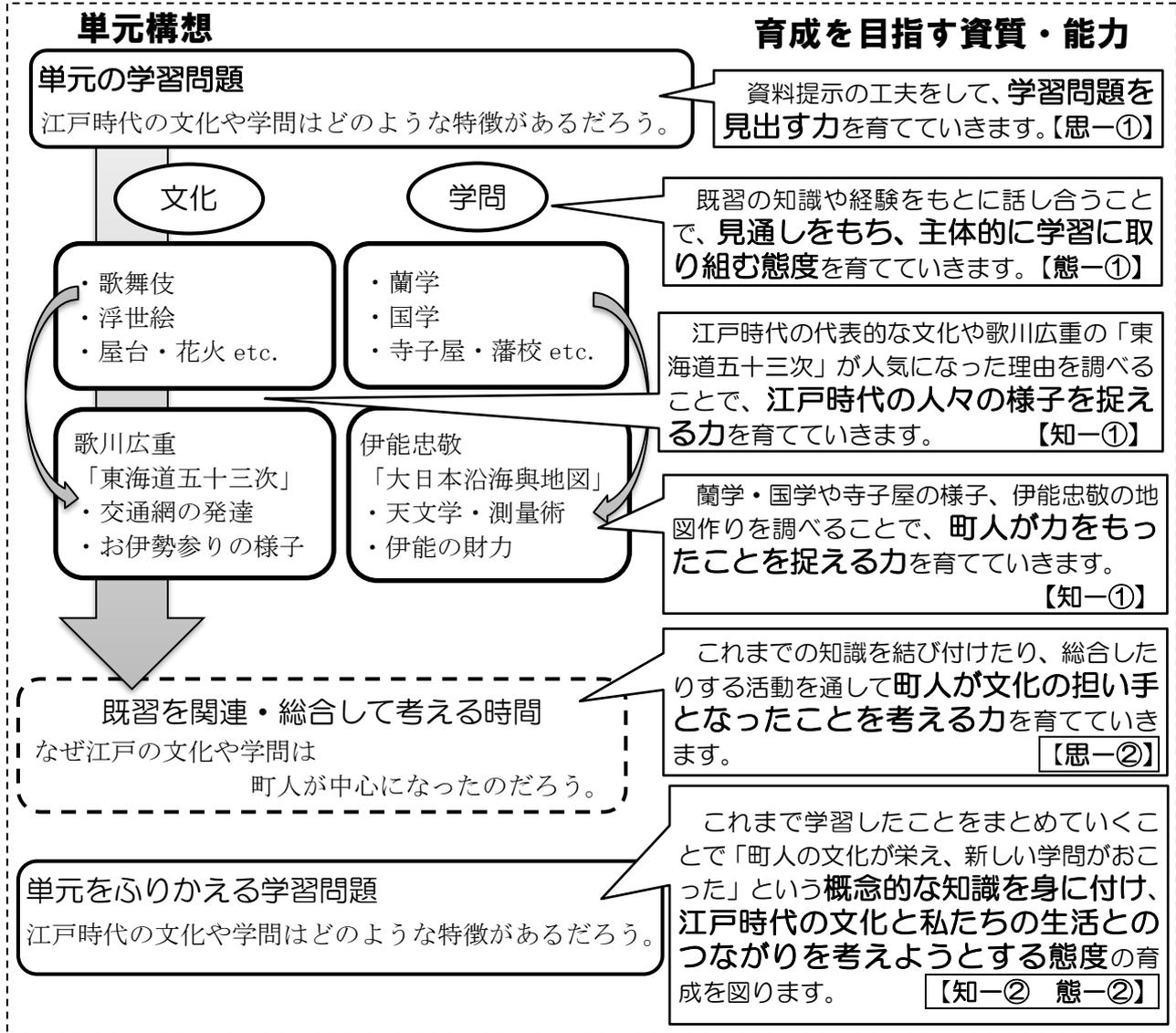
資料. 「社会のしくみ」と「社会とのかかわり」をつなぐ理解の構造図



## ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

令和2年度の新学習指導要領の全面实施により、評価規準が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点になりました。このことを踏まえ、資質・能力の育成のためには、評価の計画を重視した単元構想が大切であると考えました。

### 〈単元全体を通して、育成を目指す資質・能力を意識する〉



### 〈「学びの地図」を通して、子どもの考えの変容を読み取り、授業改善に生かす〉

本実践では、「学びの地図」というポートフォリオ評価を行いました。この「学びの地図」では、学習の中で分かったこと・思ったことを簡潔に書くようにし、見開き一枚で単元の学びを振り返ることができるようにしました。

この振り返りを教師が見取ることで、次時の授業改善に生かしたり、学習状況を価値付けたりしました。また、子どもたち自身も自分の学びの深まりを感じることができていました。

単元の学習問題	
学習前の考え	1時間ごとの分かったこと・思ったこと
<b>学びの地図の構造</b>	
単元を学習して思ったこと	